

第10回避難所・避難生活学会学術集会に参加しました（2025/2/22-23）

テーマ：障がい、避難、避難所、避難生活
会場：大阪公立大学 I-siteなんば C2C3教室
URL：<https://dsrl.jp/780>

2025年2月22～23日、ボレー・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）と朴慧晶助教（災害医療国際協力学分野）は、避難所・避難生活学会の創立メンバーである北川慶子名誉教授（佐賀大学）の招待により、大阪で開催された第10回避難所・避難生活学会学術集会で、障害と避難所のテーマで発表しました。

避難所・避難生活学会は、地域内で避難所の運営や避難生活の支援に直接関わっている実務者（町内会、市または村の職員）と研究者、政府などの学際的・実務的交流と協力の上で、災害時の避難所の運営と避難生活を検討・研究し、避難所での避難者・被災者の安全性の確保や迅速な復旧・復興を目指しています。第10回集会のテーマは「阪神淡路大震災から30年、今こそTKB48を避難所のスタンダードに」で、令和6年能登半島地震におけるTKB（T：トイレ・K：キッチン・B：ベッド）の状況について、現時点での様々な避難所運営・設置に関わる課題と多くの活動報告が取り上げられました。

二日目の2月23日、災害時の障がい者とそのご家族における避難と避難所の状況報告のパネルで、ボレー准教授と朴助教は「災害時の障害者支援：東日本大震災後の能登半島からの声」のタイトルで、障がい者とそのご家族が直面している状況と課題について発表しました。主催者と聴衆の両方から、インクルーシブアプローチで障がい者とそのご家族のための新しい避難所の枠組みの必要性が取り上げられました。続いて、北川教授は「災害と障害者：超高齢社会における災害時支援の課題」について、法律と社会的観点の変化の必要性について講演しました。北川教授はボレー准教授、朴助教の研究の障害と災害というテーマは、災害時だけではなく平常時から誰もが安全でレジリエントな社会の構築することを目指しており、将来の社会環境を考えて多学際的アプローチやプロジェクトを立ち上げることが重要で急務であることを強調しました。



ボレー准教授の発表



朴助教の発表



北川教授の発表

文責：ボレー・セバスチャン（国際研究推進オフィス）
朴慧晶（災害医療国際協力学分野）